

芦屋大学図書館所蔵稀観書展覧会 第六回「日本の宗教の書」に因んで

公民館セミナー・ギャラリー展示

同時開催

「観無量寿経と 親鸞上人」

〔講演概要〕

親鸞上人は浄土真宗を創始したことで有名ですが、その教えの中心となった念仏についても、その依拠している教典についても、私たちはよく知りません。お経というと、お葬式などで耳にするものの、その意味についてはほとんどわからず、意味があると考えたこともない人が多いと思います。鎌倉時代に、貴族のものであった仏教が平民に広がっていく重大な契機となったのは、「南無阿弥陀仏」という六字名号をとる念仏宗の成立でした。この鎌倉新仏教の確立にもっとも大きな力のひとつとなったのが、親鸞上人の信仰であったことは断言してよいと思われます。その人となり、信仰についてお話ししようと思います。西田幾多郎、鈴木大拙、柳宗悦、三木清らの思想思索にも大きなインパクトを与えた親鸞の信仰の意味をふりかえります。

松井 健（東京大学名誉教授・芦屋大学客員教授）



講師プロフィール

1949年生、京都大学理学部卒、京都大学理学研究科中退、理学博士。京都大学人文科学研究所助手、神戸学院大学教養部助教授を経て東京大学東洋文化研究所教授。2015年定年退職、2022年から金城次郎館（沖縄県南城市）館長。人類学（認識人類学、西南アジア民族誌）を専攻、退職後は美しいものを手がかりに、学術研究が扱わなかった価値や感性について考えている。

東京大学名誉教授・芦屋大学客員教授 松井健

参加
無料

日時：9月19日（金）14:00～15:30
場所：芦屋市民センター本館 401 室（先着 90 名）
お申し込み不要。直接会場にお越しください。

芦屋大学図書館所属稀観書展覧会第 6 回展示 市民センターギャラリー展示場

「日本の宗教の書」 9月19日（金）～ 9月28日（日）
月～土 9:00～21:00 日・祝 17:00 まで 火Ⓓ

概要

日本は、とくに近年宗教からどんどん遠ざかっていくように感じられます。寺社の観光、仏像の鑑賞は多くの人びとを魅了しますが、「宗教的」というと、高額な寄付金を奪う新興宗教やら、ホラーや怪談、占いや縁起かつぎのようなことがすぐに想起されます。宗教は、普通に生きる人びとが、身近に感じるができる親しく大切な「生きる」感覚ではなくなったように思われます。今回展示する聖徳太子が飛鳥時代に書いた日本初の書物である仏典の注釈書、中国からもたらされた密教仏典の図像、親鸞上人が筆写して細かく書き込んだ教典、日本のあらゆる神々を一挙に礼拝するための掛け軸などは、もう一度私たちの宗教と信仰について再考する手がかりとなるはずです。

主催：学校法人芦屋学園 芦屋大学、芦屋市 お問い合わせ：芦屋市立公民館（0797-35-0700）